

討 議

第十九卷第七號 昭和八年七月

螺旋形排砂池模型實驗報告

(第十八卷第十二號, 第十九卷第四號所載)

著者會員 工學士 石井 穎一郎

著者の實驗報告に就き下田尾君の討議を感謝する。貴説の通り彎曲水路は直線水路に比して其損失水頭の大きいこと云ふ迄もないが、著者の行つた實驗によると彎曲水路のための損失水頭は僅少であつて、寧ろ水路の終點から其尾管を経て放水口に至る間に於て大きかつたのである。拙稿第一表に於て全損失水頭 h_1 中彎曲水路に因る損失水頭 $H_E - H_1$ は僅であつて水路終點から放水口に至る間の損失水頭 $H_1 - H_F$ が大きいことに御注意願ひ度い。

彎曲水路のみによる損失水頭が上記の様に僅少であつたから、従て直線水路の模型實驗に於ける損失水頭は計り得ない程度であつた。

次に水量が餘り大でなく落差が相當ある場合に地勢を利用して取入口附近に彎曲水路を造れば沈砂效果如何との貴問に對しては成程理論上排砂の傾向がある筈であるが、水路の半徑が大になれば効果が減ずるであらうし又半徑が小さくつても水路の其長さが短くては之亦大した效果あるまいと思はれる。

實地應用の場合、適當な大小其他に關しては發明者 Enz 君はいくら大きくても能いと言て居るが、著者は之に對して具體的に論議することを避けたい。此問題に就ては何卒今一度拙稿を熟讀翫味して頂き度いと思ふのである。